

国立民族学博物館の収蔵品(21)

紛争と楽器



写真1 民博音楽展示場のクリンタン



写真2 クリントンの演奏（マラウィ市、2002年、寺田吉孝撮影）

民博の音楽展示場には、フィリピンを代表する伝統音楽の一つであるクリンタンの楽器が展示されている。クリンタンは、複数のゴングと太鼓からなる器楽アンサンブルで、フィリピン南部のミンダナオ島やスールー諸島に住むイスラム教徒によって伝承されてきた。しかし、その音楽は宗教の教義とは関係なく、イスラムが伝来する前からこの地域に存在する憑依儀礼の伴奏として、または結婚式などで人々の娯楽として演奏されてきた。フィリピンのイスラム教徒は一三の民族集団に分かれており、それぞれがクリンタンの演奏伝統をもつが、楽器の構成や演奏される音楽は少しずつ異なっている。音楽展示場で見ることができるのは、フィリピンで二番目に大きい湖ラナオ周辺に住むマラナオ人の楽器である。

クリンタンが演奏されるミンダナオ島は、一九七〇年代以降イスラム分離主義勢力が政府と対立して戦闘を繰り返してきた地域である。イスラム教徒に一定の自治権が与えられたが和解への動きは一進一退で、今も不安定な状態が続いている。また、近年では、国外のテロ組

織と連携する武装集団や麻薬組織の台頭を背景とした戦闘も頻発しており、状況はより錯綜している。

展示場の楽器は二〇〇二年に、ミンダナオ島に住む私の知人を通して民博が購入したものであるが、その経緯はこのような不安定な政治と無縁ではない。ラナオ湖の南に位置するブティグはクリンタンの演奏が盛んなことで知られる村だったが、麻薬組織の拠点となるにつれて殺傷事件が増え、ほとんどの村人たちは身の危険を感じて村を出ざるをえなかった。クリンタン音楽は、それぞれの村に独特な楽曲や演奏慣習があることが多く、人々が離散するにつれてそのような個別の伝統を維持することが難しくなるため、音楽の多様性が失われつつある。

ブティグ村から大事な資産である青銅のゴングを携えて、マラナオ人の中心都市マラウィまで逃れてきた一家がいた。民博のコレクションのために楽器を探していた友人が、この一家のことを聞き知り、品質を確かめた上で購入してくれたのだった。すぐに楽器は航空便で民博に郵送された。質の高い古楽器は入手が難しいため、初めて資料を見た時には運の良さを感じたのを覚えている。

ところが現在、このマラウィ市で激しい戦闘が繰り広げられている。過激派組織ISと関係が深いとされる武装集団マウテの活動が活発化するなか、ドゥテルテ大統領が大規模な掃討作戦を開始したからだ。五月二十三日には戒厳令が布告され、町の機能は完全にストップしている。武装集団のアジトとされる地域にフィリピン軍が空爆を行っており噴煙が上がっているが、かれらは住民を人質にして抵抗しているため事態收拾のめどはたっていない。

私は二〇〇八年にマラウィで映像取材を行い、クリンタン音楽を紹介する映像番組を制作したが、取材地のいくつかは爆撃で破壊されたらしい。家宝であるクリンタンを譲ってくれた一家の安否を案ぜずにはいられない。（寺田吉孝）